


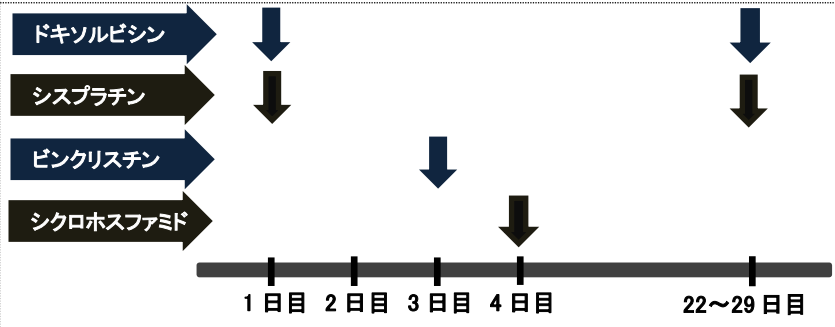
## 抗がん剤治療に関する説明及び同意書

### ●あなたの病気・治療法について

#### シスプラチン+ドキシソルビシン+ビンクリスチン+シクロホスファミド療法

1日目にシスプラチン、ドキシソルビシン、3日目にビンクリスチン、4日目にシクロホスファミドの点滴を行い、これらを3～4週間ごとに最大4コースまで繰り返します。

#### シスプラチン+ドキシソルビシン+ビンクリスチン+シクロホスファミド療法 (スケジュールと方法)

薬剤	方法	治療日(目安)
ドキシソルビシン + シスプラチン + ビンクリスチン + シクロホスファミド	点滴 	

### ●副作用について

副作用の現れ方、出現頻度には個人差があります。抗がん剤による副作用は、薬で予防できるものや、症状を和らげることができるものもありますので、副作用が辛いと感じたときにも担当医にお知らせください。

起こりやすい副作用	白血球・血小板減少、貧血、脱毛、だるさ、下痢、腎機能障害、吃逆(しゃっくり)、しびれ、吐き気
時として起こる副作用	便秘
まれにしか起こらないが重い副作用	間質性肺炎、アナフィラキシーショック、出血性膀胱炎・排尿障害、イレウス、心筋障害、抗利尿ホルモン不適合分泌症候群、中毒性表皮壊死融解症、肝機能障害、急性腎不全 横紋筋融解症

## ●起こりやすい副作用

### ① 白血球減少

白血球は、細菌から身を守る役割(免疫機能)を担っているので、ある一定以上の数がないと感染症にかかりやすくなります。最も白血球数が低下する時期は投与7日から21日目とされています。この時期あたりで発熱を認めた場合には、早期に担当医にお知らせください。

### ② 血小板減少

程度の軽いものが殆どです。治療開始から1~2週間目に最も低下します。血小板は止血に重要な機能を果たしています。血小板の数が極端に低下した時や(2万未満)、出血がみられる場合などは、血小板輸血を行うことがあります。

### ③ 貧血

酸素を全身に運ぶ赤血球が減少することがあります。1~2カ月目以降に起こることがあります。貧血が強い場合には、輸血を行うこともあります。

### ④ 脱毛

治療開始2週間後くらいから髪の毛が抜け始めます。しかし治療が終了して1~2か月後には髪の毛が生え始め、6~7か月後には、治療前と同じくらいまで生えそろういます。

### ⑤ だるさ

症状の軽いものを含めると、多くの方に現れます。しかし、肺がん自体でも同症状が出現することもあります。

### ⑥ 下痢

下痢の回数が増えると脱水症状を引き起こすことがあるので注意が必要です。飲み薬や点滴による治療を行うこともあります。

### ⑦ 腎機能障害

個人差が大きいです。特にシスプラチンに関連して出現することがあります。予防目的に点滴初日は比較的大量の補液を行います。腎障害がひどくなった場合には、薬剤投与を中止することもあります。

### ⑧ 吃逆(しゃっくり)

治療開始から7日以内に起こることがあります。症状が続く場合は、吃逆(しゃっくり)をとめる薬を使用することもあります。

### ⑨ しびれ

症状の軽い方がほとんどですが、治療を始めて1~2か月後から、手足や足先にしびれが出ることがあります。治療終了後も症状が続く場合があります。

### ⑩ 吐き気

症状の軽いものを含めると、多くの方に現れます。吐き気止めを使って、できるだけ吐き気が出ないようにします。症状が高度の場合は、2コース目より予防薬を追加することがあります。

## ●時として起こる副作用

### ① 便秘

抗がん剤治療を受けている間、便秘が起こることがあります。便を柔らかくする薬や腸の動きを促す薬を使って、便通を改善するようにします。

## ●まれにしか起こらないが重い副作用

### ① 間質性肺炎

間質性肺炎(肺臓炎)は、発症した患者さんの半分近くが命をおとす危険な副作用です。

風邪のような症状(咳がひどくなる・息切れ・発熱など)が現れたら、担当医に伝えるようにしてください。

② アナフィラキシーショック

極めて稀に、点滴中にショック状態や呼吸困難が出現することがあります。点滴中に痒みが出たり、息苦しくなった場合には、すぐに知らせてください。

③ 出血性膀胱炎, 排尿障害:

尿に血液が混ざる、尿の回数が増える、排尿時に痛みがある、尿が残っている感じがする、尿が出にくい、などの症状があらわれた際には、すぐに担当医に知らせてください。

④ イレウス(腸閉塞)

腸管の動きが悪くなり、お腹がはる、著しい便秘、腹痛、吐き気、嘔吐などの症状を来すことがあります。症状出現時にはすぐに担当医に知らせてください。

⑤ 心筋障害

心筋が障害され、心臓の動きが悪くなることがあります。むくみ、胸の痛み、動くときの息切れ、動悸(どうき)などの症状を来した場合には、すぐに担当医に知らせてください。

⑥ 抗利尿ホルモン不適合分泌症候群(SIADH)

低ナトリウム血症, 低浸透圧血症を来すことがあります。けいれん、意識の低下、頭痛、吐き気、嘔吐、食欲不振などの症状があらわれたら、すぐに担当医に知らせてください。

⑦ 中毒性表皮壊死融解症(TEN)

38℃以上の発熱、目の充血、唇のただれ、のどの痛み、皮膚の広い範囲が赤くなるなどの症状がみられ、その症状が持続したり、急激に悪くなったりします。異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行います。

⑧ 肝機能障害, 黄疸

38℃以上の発熱、からだのだるさ、皮膚や白目の黄染、食欲不振、吐き気、嘔吐、腹痛、発疹、かゆみなどの症状を呈することがあります。定期的な肝機能検査を行い、異常が認められた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行います。

⑨ 急性腎不全

尿量が減る、ほとんど尿が出ない、一時的に尿量が多くなる、発疹、むくみ、体がだるいなどの症状を呈することがあります。定期的な腎機能検査を行うなど観察を十分に行い、異常が認められた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行います。

⑩ 横紋筋融解症

手足・肩・腰・その他の筋肉が痛む、手足がしびれる、手足に力がはいらない、こわばる、全身がだるい、尿の色が赤褐色になる、などの症状があらわれたら、すぐに担当医にお伝えください。

●その他注意すること

① 血管外漏出

抗がん剤が血管の外に漏れることで組織の障害(炎症・壊死)などをもたらします。点滴中に痛みが出現した時にはすぐにスタッフへ教えてください。また組織の障害は数日経過してから起こることもあります。

② 尿・汗などの着色

薬を注射してから1~2日の間、尿や汗に色(赤色・桃色・橙色等)がつくことがあります。が心配いりません。その後、元に戻ります。

抗がん剤治療による様々な副作用は上記以外にも起こることが報告されています。適切な治療を行ったにも関わらず、お亡くなりになる方もいらっしゃいます。上記のような症状、または上記以外でもいつもと違う症状が出た場合は、担当医まで連絡してください。

以上がん化学療法について説明をしました。 西暦                      年        月        日

地方独立行政法人神奈川県立病院機構 神奈川県立循環器呼吸器病センター

@USERSECTION 担当医師

上記について担当医から説明を受け、納得しましたので治療を受けることに同意します。

西暦                      年        月        日

患者氏名 \_\_\_\_\_

親族又は代理人(配偶者・父母・兄弟姉妹・親権者・保護義務者・法定代理人・その他)

氏名 \_\_\_\_\_

続柄 \_\_\_\_\_